

# 校名：茨城大学教育学部附属小学校

所在地：〒310-0011

電話番号：029-231-2831

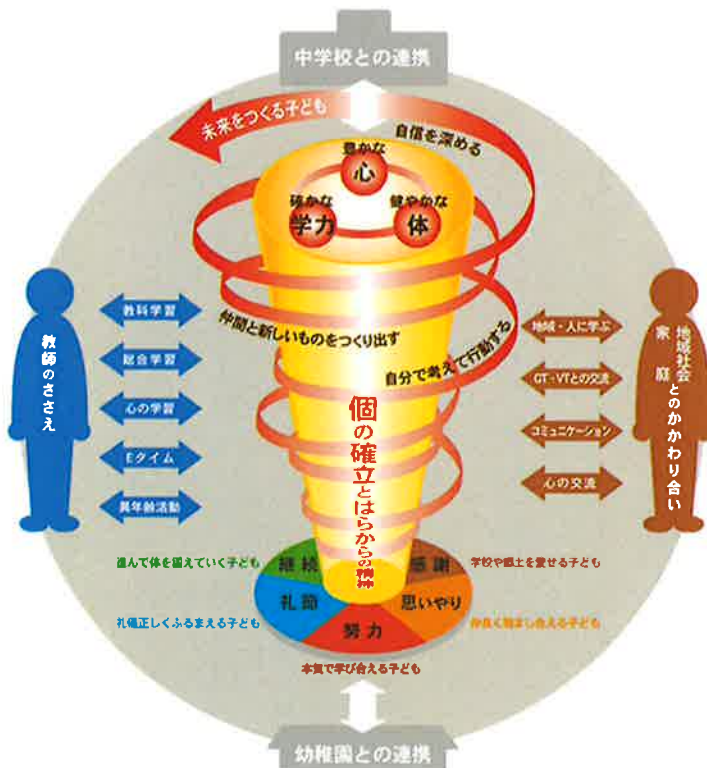
記載日：平成28年5月24日

記載者：久地岡 啓一郎

記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

- 本校は、茨城県の県庁所在地である水戸市の中心市街地に立地しており、水戸駅からも徒歩10分にある。また水戸城趾にあり、世界遺産登録を目指している水戸藩の藩校である弘道館も近隣にあり、“歴史ロード”と呼ばれる江戸時代の歴史の佇まい復元した観光スポットの中に位置している。さらには、同じ茨城大学教育学部の附属幼稚園が隣接しており、その他、近隣には、水戸市立三の丸小学校、水戸市立第二中学校、茨城県立第一高等学校、第三高等学校もあり、文教地区の一角となっている
- 昭和33年、本校の前身である茨城大学教育学部愛宕小中学校と同水城小中学校が統合され、旧水城小学校の当地に本校が発足し、来年で60周年を迎える。現在、児童数は622名で、3・4年の複式学級を含めて、19学級で編成されている。



○ いろいろなことに興味関心が高かったり、積極的に取り組んだりしたり、こだわって追究したりするなど、様々なことに学ぶ意欲の高い子どもたちが多い。学校行事や対外行事等のイベントの際にも、高いパフォーマンス力を発揮するなど、いわゆる“本番に強い”子どもたちである。保護者の方たちも大変熱心で、学校の教育活動を支えてもらっていて、PTA活動も活発に行われ、学校との協力体制ができている。さらには、教職員も一人一人が附属としての使命や自負を持ちながら、附属小「ならでは」や「つくり上げる」を目指して、日々子どもたちの教育活動に当たっている。

## 貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 特別に追跡調査は行っていない。
- ② 卒業生の活躍状況については、卒業生や保護者からの情報によるが中心で、十分には把握できていない。
- ③ 著名な卒業生では、作家の立花隆さん、女優の三森千愛さん、プロゴルファーの三塚優子さんなどが挙げられる。音楽家の池辺晋一郎さんも在籍していたことがある。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 1年交代で行われている、OBと現職の職員の親睦会（大附属会、小附属会）で近況や情報交換を行ったり、叙勲等の披露・祝賀会も実施したりしている。
- ② OB職員の氏名や連絡先、勤務先は、親睦会の名簿により、学校で把握している。
- ③ 県や市の教育委員会の指導主事や管理主事、管理職等の要職に就くOBが多い。また、公立学校においても、研究主任や教務主任、生徒指導主事等の指導的な立場となって、活躍していることが多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 附属としての存在意義である「国の拠点校」「地域のモデル校」として役割を果たし、「教員養成」と「研究発信」という設置目的のために、次のような取り組みを行っている。

まずは、教員養成としては、年2回、教育実習として茨城大学教育学部の学生約140名を受け入れ、その指導に当たっている。また、今年度からは、茨城大学教職大学院の教育実習も行う。さらには、茨城大学教育学部のいくつかの教科教育法の講座を本校教員が担当している。

ここ数年は、水戸教育事務所管内の全指導主事を対象とする、指導主事研修会として、本校の授業が活用されている。

- 研究発信としては、研究テーマ（3年サイクル）を設定し、年2回研究会を開催し、その研究成果を広く発信している。6月に行っている教育研究発表会では、茨城県教育庁学校教育部義務教育課、同保健体育課、茨城県教育研修センターの指導主事の先生方を講師に、1月に行っている公開授業研究会では、茨城大学教育学部の教科教育法の先生方を助言者に、行政や大学と連携を図りながら、研究会を運営している。

また、本校の教員が、各地の研修会や研究会の講師や助言者、出前授業等で出かけていくこともある。

- 本校の特色ある取り組みの1つとして、本校の教育理念「個の確立とはらからの精神」の具現化である、「はらから活動」が挙げられる。

「はらから活動」は、いわゆる1～6年までから成る縦割り班（はらから班）活動で、全校で24班編制となっており、大きく4つのブロック（ABCD）に分かれている。主に次のような活動を行っている。

- ・ 本校の通常の清掃活動は、“はらから清掃”と呼ばれる、はらから班によるものである。
- ・ 毎週水曜日、お昼休みの時間帯を“はらからショート”と位置付け、定期的な交流の時間としている。また、月1回は、はらからタイムを給食の時間帯にまで拡大し、お弁当を食べるの“はらからロング”として、活動に変化も付けている。
- ・ 基本的な学校行事は、はらから班をもとにした「はらから行事」として実施している。

このように、はらから活動は、密度の濃い子どもたちの交流活動であり、はらから班は「もう一つの学級」とも呼ばれている。異年齢教育のよさを活かす活動として、他のモデルとなるべき取り組みと言える。



〈はらから清掃〉



〈はらからショート〉



〈はらからロング〉



〈1年生を迎える会〉



〈キッズワールド〉



〈夏のふれあい活動〉

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- 年度当初に教育研究発表会を位置付けて、他の示唆となる考え方や授業についての研究発信をしたり、はらから活動などの特色ある活動を展開したり、地域の研究会や研修会に本校教員を講師として派遣したりすることなどを通して、「地域のモデル校」としての役割を果たしていると考えている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

- 附属としての存在意義である「国の拠点校」「地域のモデル校」として役割を果たし、「教員養成」と「研究発信」という設置目的のために、前述のような取り組みを行っている。茨城大学教育学部とはもちろん、県や市の行政組織とも連携を図っており、「国の拠点校」「地域のモデル校」としての取り組みを続けている。
- 本校では、「ならでは」と「つくり上げる」の2つをキーワードに、教職員が課題意識をもちながら様々な活動に取り組んでいる。このこだわりと志が、本校の大きな特色であり、本校の附属として存在意義を支える土台となっている。